発達障碍を有するトランスジェンダーの自己と主体のあり方の解明

Nara Women's University

人文科学系・人間科学領域　**町田　奈緒士**　専任講師　MACHIDA Naoto　博士（人間・環境学）（京都大学）

■研究キーワード　心理学, トランスジェンダー, セクシュアル・マイノリティ

■主な所属学会　日本質的心理学会, 日本心理臨床学会, 日本GI（性別不合）学会, 日本心理学会, 日本箱庭療法学会

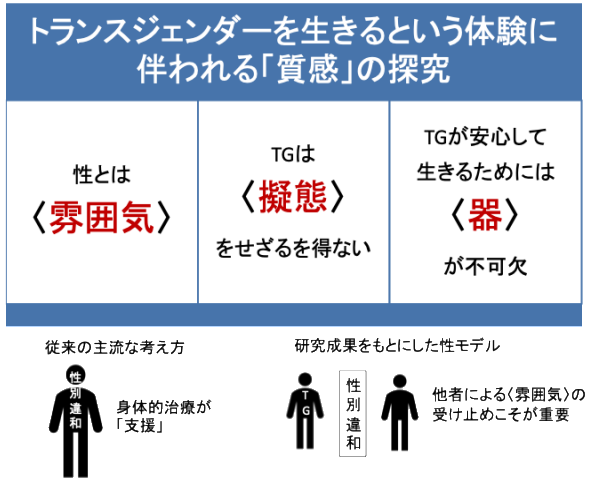
■研究者総覧　https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.776e89ac649ad4df520e17560c007669.html#

研究者総覧

研究概要

トランスジェンダーを生きるという体験に伴われる実感や身体感覚（「質感」）について、インタビュー調査をもとに探究してきました。これまでに実施してきた研究内容は、主に以下の2点になります。
①関係論的・現象学的視座からの性理論の理論的検討
②トランスジェンダーの人々の体験に伴われる実感に焦点を当てた質的分析

これらの研究をもとに、息をひそめる感じ、後ろめたさといった、トランスジェンダーを生きるという体験に伴われる実感の諸側面について論じました。また、従来個人の内部で自己完結しているように考えられてきた性ないし性別違和という事象が、他者とのあいだに現出することを論じました。
　現在は、トランスジェンダーの中でも、とりわけ発達障碍を有する人々の自己理解や主体のあり方を解明する研究を実施しています。



アピールポイント

研究：発達とジェンダーの交差への着目

　近年、ジェンダーや障碍に由来する差別などを、個別の問題として扱うのではなく、互いに交差し合うものとして捉える「交差性（インターセクショナリティ）」の視点が重要視されるようになっています。インターセクショナリティの理論枠組みを参照しながら、発達障碍を持ちながらトランスジェンダーを生きるという体験の固有性を浮かび上がらせたいと思っています。

実践：セクシュアル・マイノリティ当事者のための自助会の運営

　2024年度は、名古屋大学の学生支援本部と共催で、セクシュアル・マイノリティ大学生を対象とした自助会を企画し、当事者同士で語り合うという実践がどのような意味をもたらすのかについても検討しました。
　今後、本学でも、一般市民の方を対象に、セクシュアル・マイノリティ当事者やその周囲の方々（ご家族・パートナー・ご友人など）を対象とした自助会を発足できればと思っています。

　研究・実践活動を通じ、「障碍・障碍受容とは何であるか？」「真の意味での当事者支援とは何か？」といった学際的かつ根本的な問いに、当事者の体験に根差した視点から回答を導きたいと思っています。